

2021年3月期 第3四半期連結業績概要 2021年3月期 通期見通しについて

専務執行役員
山西 哲司

山西でございます。本日はご多忙のところ、当社2021年3月期第3四半期決算説明会に多数ご参加いただき、誠にありがとうございます。それでは私から連結業績概要についてご説明します。

2021年3月期 第3四半期決算のポイント

Attracting Tomorrow 

コロナ禍での社会経済活動、生産活動の再開により、エレクトロニクス需要の回復基調が継続。DX、EX関連需要が堅調に推移し、前年同期比増収・増益を確保。

- 売上高は前年同期比11.3%増、営業利益は前年同期比11.6%増
 - 第3四半期の売上高、営業利益は四半期ベースで過去最高を更新*
- 第2四半期より急速に回復した自動車市場向けの受注が第3四半期も好調に推移し、受動部品、センサの販売が拡大。
- ICT市場向けは、DX関連需要が引き続き堅調に推移。在宅勤務・授業向けPC、タブレットや5Gスマートフォン向けに、二次電池、受動部品の販売が拡大。
- 第3四半期までの実績及び直近の受注動向より通期業績見通しを上方修正。
- コロナ禍における短期的収益改善施策の継続、及び需要動向変化を見据えた拠点再編等の資産効率向上施策を推進。

*営業利益は2017年3月期に計上の事業譲渡益を除いたベースで比較

2021年3月期第3四半期決算説明会

© TDK株式会社・2021
広範グループ・2021/1/29・2

まず決算のポイントですが、世界各国において第3波の到来等コロナウイルス感染拡大による社会への影響が継続する中、すでに再開されている社会経済活動や各社生産活動において、エレクトロニクス需要の回復基調が第2四半期からさらに鮮明になってきました。ICT市場において引き続きモバイルデバイス等、DX関連需要が堅調に推移、自動車市場においてxEVやADAS等、自動車の電装化加速も相まって全体需要が拡大、また産業機器市場において再生可能エネルギー向け需要が増加しており、EX関連需要回復も鮮明になってきました。そのような需要環境の中、第3四半期の売上高、営業利益は前年同期比11.3%の増収、11.6%の増益を確保、四半期ベースで売上高、営業利益とも過去最高を更新しました。

第2四半期より急速に回復した自動車市場向け受注が第3四半期も好調に推移し、受動部品やセンサの販売が拡大、ICT市場向けもDX関連製品需要が堅調に推移し、二次電池や受動部品の販売が増加し、全体収益に大きく貢献しました。

DX、EX関連の直近受注動向は堅調に推移しており、また好調に推移してきた第3四半期までの累計実績を踏まえ、通期業績見通しを前回発表から再度上方修正します。

需要回復に気を緩めることなく、新型コロナウイルス感染拡大に備えて期初に策定した合理化、効率化等の追加的収益改善施策については継続して実施するとともに、DX、EX関連需要動向を見据え拠点再編等の資産効率向上施策を推進し、さらなる収益性改善を加速してまいります。

2021年3月期 第3四半期（四半期）連結業績概要

Attracting Tomorrow



(億円)		2020年3月期 第3四半期実績	2021年3月期 第3四半期実績	前期比	
				増減	増減率 (%)
売上高		3,556	3,957	401	11.3
営業利益		404	451	47	11.6
営業利益率		11.4%	11.4%	-	-
税引前利益		412	462	50	12.1
当期純利益		295	309	14	4.7
1株当たり利益 (円)		233.35	244.22	-	-
為替	対ドルレート (円)	108.74	104.50	3.9%の円高 3.4%の円安	
	対ユーロレート (円)	120.34	124.46		
為替変動による 影響金額		売上高：約70億円の減収 営業利益：約43億円の減益			

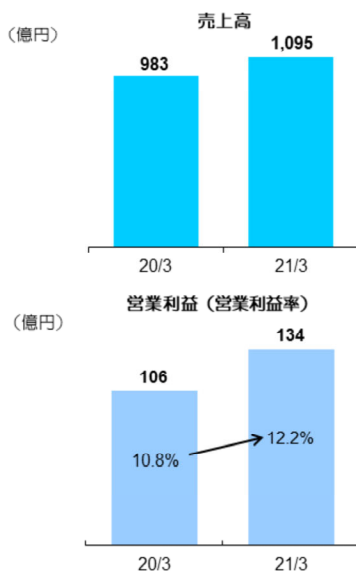
2021年3月期第3四半期決算説明会

© TDK株式会社・2021
広範グループ・2021/1/29・3

続いて業績概要です。対ドル等の円高為替により、売上高が約▲70億円の減収、営業利益で約43億円の減益影響がありました。それらを含み、売上高は3,957億円、前年同期比401億円、11.3%の増収、営業利益は451億円、前年同期比47億円、11.6%の増益、税引前利益は462億円、当期純利益は309億円、1株当たり利益は244円22銭となりました。

為替の感応度は、営業利益で円とドルの関係において1円の変動で前回と同様年間約12億円、円とユーロの関係において約2億円と試算しています。

第3四半期各事業の状況（受動部品事業）



売上高 1,095億円（前年同期比11.4%増）
営業利益 134億円（前年同期比26.4%増）

- セラミックコンデンサ
 - ↳ 前年同期比で増収・増益。
 - ↳ 自動車市場・代理店向けの販売が増加、ICT市場向けの販売が減少。
- アルミ・フィルムコンデンサ
 - ↳ 前年同期比で増収・増益。
 - ↳ 自動車市場・産業機器市場向けの販売が増加。
- インダクティブデバイス
 - ↳ 前年同期比で増収・増益。
 - ↳ 自動車市場・ICT市場向けの販売が増加。
- 高周波部品
 - ↳ 前年同期比で増収・増益。
 - ↳ 自動車市場・ICT市場向けの販売が増加。
- 圧電材料部品・回路保護部品
 - ↳ 前年同期比で増収・増益。
 - ↳ 自動車市場・産業機器市場向けを中心に販売が増加。

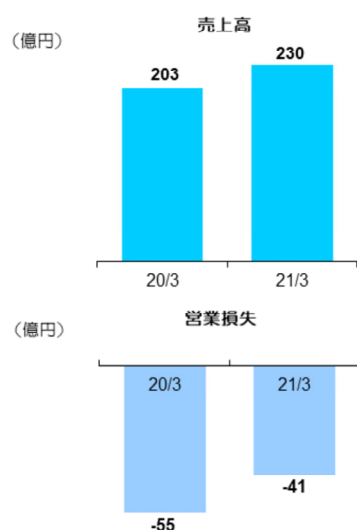
続いて、第3四半期のセグメント別の状況についてご説明します。

受動部品セグメントの売上高は1,095億円、前年同期比11.4%の増収、営業利益は134億円、26.4%の増益、営業利益率は12.2%となりました。自動車市場の需要が第2四半期から急速に回復、ICT市場においても5G関連を中心に堅調に推移、産業機器市場の需要も再生可能エネルギー向け等で増加した結果、すべての事業で増収・増益となりました。

セラミックコンデンサは、5G基地局向け売上が減少した一方で、自動車市場や代理店向け販売が増加しました。アルミ電解コンデンサ・フィルムコンデンサは自動車市場向けに加え、再生可能エネルギー等の産業機器市場向け売上も増加しました。インダクティブデバイスは自動車市場向け需要の増加に加え、スマートフォン新製品の立ち上がりによるICT市場向け販売が増加しました。高周波部品は5G関連需要が好調に推移、圧電材料部品・回路保護部品は、自動車、ICT、産業機器市場全般で増加しました。

第3四半期各事業の状況（センサ応用製品事業）

Attracting Tomorrow 



売上高 230億円（前年同期比13.3%増）
営業損失 △41億円（前年同期比一%減）

● センサ

- 自動車市場・産業機器向けの温度センサの販売が増加。
- TMRセンサは、ICT市場向けの販売が大幅に拡大し増益。
- MEMSセンサは、モーションセンサのICT市場向けの販売が、顧客基盤の拡大により増加。

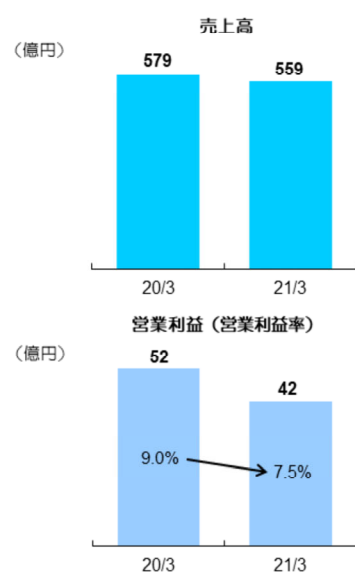
センサ応用製品セグメントの売上高は230億円、前年同期比13.3%の増収、営業損失は縮小しました。

受動部品同様、自動車市場の需要が回復したこと、またスマートフォンを中心にICT市場向け販売も大幅に増加したことにより、3事業とも増収・増益を確保しました。

温度・圧力センサは、自動車市場向けや家電向け売上増加により収益貢献できるレベルにまで業績が回復しました。ホールセンサは、自動車市場向けのサプライチェーンが長いため受注回復が遅れていましたが、ようやく売上増加に転じてきました。TMRセンサは新型スマートフォン端末のピークシーズン等により、大きく売上、営業利益を伸ばしました。MEMSセンサは、モーションセンサの顧客基盤拡大によりICT市場向け販売が拡大、開発リソースの見直しによる費用効率化もあり、赤字が縮小しました。

第3四半期各事業の状況（磁気応用製品事業）

Attracting Tomorrow 



売上高 559億円（前年同期比3.5%減）
営業利益 42億円（前年同期比19.2%減）

- HDDヘッド・サスペンション
 - ↳ HDDヘッドは前年同期比で減収・減益。
 - ↳ HDDサスペンションは、サスペンション及びサスペンション応用製品の販売が拡大し増収・増益。
- マグネット
 - ↳ 前年同期比で増収・増益。
 - ↳ 産業機器市場向けを中心に販売が増加。

2021年3月期第3四半期決算説明会

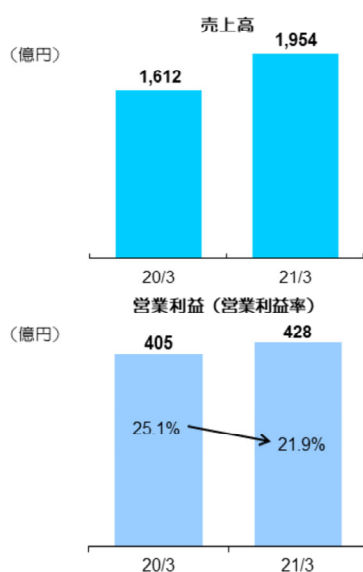
© TDK株式会社・2021
広報グループ・2021/1/29・6

磁気応用製品セグメントの売上高は559億円、前年同期比▲3.5%減収、営業利益は42億円、▲19.2%の減益となりました。

HDDヘッドは、PC需要増加でHDD組立の売上増加があったものの、HDD総需要の減少によるHDDヘッド出荷数量の減少に伴い、減収・減益となりました。HDDサスペンションは、主要顧客のデータセンター用ニアラインHDDが好調に推移し、出荷数量増加により増収・増益となりました。マグネットは自動車市場向け需要回復、および再生可能エネルギー向け等産業機器向け販売が増加し増収となり、赤字が縮小しました。

第3四半期各事業の状況（エネルギー応用製品事業）

Attracting Tomorrow



売上高 1,954億円（前年同期比21.2%増）
営業利益 428億円（前年同期比5.7%増）

- エナジーデバイス（二次電池）
 - ↳ 前年同期比で増収・増益。
 - ↳ スマートフォン、PC、タブレット向けの販売が拡大。
 - ↳ ワイヤレスイヤホン（TWS）等小型機器向けのミニセル製品の販売が拡大。
 - ↳ 電動二輪車、家庭用蓄電システム向けのパワーセル製品の販売が拡大。
- 電源
 - ↳ 産業機器用電源は、前年同期比で増収・増益。

2021年3月期第3四半期決算説明会

© TDK株式会社・2021
広報グループ・2021/1/29・7

エネルギー応用製品セグメントの売上高は1,954億円、営業利益は428億円となり、前年同期比21.2%の増収、5.7%の増益となりました。

二次電池は、スマートフォン生産台数の増加等によりスマートフォン向け売上が若干増加、またPC、タブレット向け売上が高い水準で引き続き好調に推移しました。ワイヤレスイヤホン等小型機器向けのミニセル製品も堅調に推移、家庭用蓄電システムや電動二輪車向けのパワーセル製品の販売も第1四半期から継続的に拡大し、二次電池全体で増収・増益となりました。電源は半導体製造装置等の産業機器向け需要回復により、増収・増益を確保しました。

セグメント別四半期実績

Attracting Tomorrow 

(億円)		2020年3月期 第3四半期 (A)	2021年3月期 第2四半期 (B)	2021年3月期 第3四半期 (C)	対前年同期比増減 (C) - (A)		対前四半期増減 (C) - (B)	
					増減	増減率(%)	増減	増減率(%)
売上高	コンデンサ	373	386	419	46	12.3	33	8.5
	インダクティブデバイス	348	346	390	42	12.1	44	12.7
	その他受動部品	263	262	285	22	8.4	23	8.8
	受動部品合計	983	994	1,095	112	11.4	101	10.2
	センサ応用製品合計	203	198	230	27	13.3	32	16.2
	磁気応用製品合計	579	504	559	△ 20	△ 3.5	55	10.9
	エナジー応用製品合計	1,612	2,007	1,954	342	21.2	△ 53	△ 2.6
	その他	179	114	119	△ 60	△ 33.5	5	4.4
合計		3,556	3,817	3,957	401	11.3	140	3.7
営業利益	受動部品	106	97	134	28	26.4	37	38.1
	センサ応用製品	△ 55	△ 51	△ 41	14	-	10	-
	磁気応用製品	52	14	42	△ 10	△ 19.2	28	200.0
	エナジー応用製品	405	483	428	23	5.7	△ 55	△ 11.4
	その他	△ 25	△ 28	△ 30	△ 5	-	△ 2	-
	小計	484	515	533	49	10.1	18	3.5
	全社および消去	△ 80	△ 75	△ 82	△ 2	-	△ 7	-
	合計	404	440	451	47	11.6	11	2.5
営業利益率		11.4%	11.5%	11.4%	-	-	-0.1pt	-
為替	対ドルレート (円)	108.74	106.23	104.50				
	対ユーロレート (円)	120.34	124.06	124.46				

2021年3月期第3四半期決算説明会

© TDK株式会社・2021
広電グループ・2021/1/29・8

続いて、第2四半期から第3四半期のセグメント別売上高および営業利益の増減要因についてご説明します。

まず受動部品セグメントの売上高は、第2四半期から101億円、10.2%の増収、営業利益は134億円、38.1%の増益となりました。自動車市場・産業機器市場向け売上が増加したものの、ICT市場向け売上はスマートフォン向けがピークシーズンで増加ながら5G基地局向け需要が減少し、第2四半期からほぼ横ばいで推移しました。その結果、高周波部品の売上はほぼ横ばいで推移した一方で、自動車市場・産業機器市場向け売上構成比が高い他の事業では増収・増益となりました。

センサ応用製品セグメントの売上高は、第2四半期から32億円、16.2%の増収、営業利益は10億円の赤字縮小となりました。自動車市場向け需要回復に伴い、温度・圧力センサ、ホールセンサの売上が増加、TMRセンサはスマートフォン向けピークシーズンを迎え大きく増加、またMEMSセンサは中国スマートフォン向けやドローン向けの販売が増加し、全事業で増収となりました。営業利益は、温度・圧力センサと磁気センサが黒字を確保、MEMSセンサも増収による利益改善に加え開発費効率化効果もあり、赤字が縮小しました。

磁気応用製品セグメントの売上高は、第2四半期から55億円、10.9%の増収、営業利益は28億円の増益となりました。第2四半期からHDDヘッド販売数量が約2%減少した中、平均売価上昇や、PC需要増加による3.5インチHDD組立販売増加で、HDDヘッド全体では増収となりました。HDDサスペンションはデータセンター用ニアラインHDD向け販売が大きく増加、またスマートフォン向けのサスペンション応用製品の増加で増収となりました。マグネットも、自動車市場・産業機器市場向け需要の回復により増収となりました。営業利益は、HDDヘッド・サスペンションが増収により増益、マグネットは増収効果で赤字が縮小しました。なお当第3四半期にHDDサスペンション事業においてノンコア事業と位置付けた医療事業向け精密加工部品事業を売却し、その売却益を計上しました。

エナジー応用製品セグメントの売上高は1,954億円、第2四半期から▲2.6%の減収、営業利益は428億円、▲11.4%の減益となりました。二次電池はスマートフォン向け売上が一部得意先の在庫調整により、第3四半期予定していた相当部分が第4四半期にシフトした影響等で想定水準を大きく下回り、二次電池全体の売上が第2四半期から減少しました。また、産業用電源も若干減収となりました。営業利益は、産業用電源が減収ながら増益を確保したものの、二次電池においては減収に加え、パワーセルの体制強化と開発加速に伴う費用増加もあり、減益となりました。

営業利益増減分析

Attracting Tomorrow 

2020年3月期
第3四半期
404億円

営業利益 +47億円

2021年3月期
第3四半期
451億円

(単位：億円)

売上による
利益変動
+185

売価値引き
▲73

合理化
コストダウン
+50

構造改革効果
+5

販売費及び
一般管理費増
▲81

M&A関連
一時費用
+4

為替変動
(US\$=Yen 104.50)
▲43

404

451

2021年3月期第3四半期決算説明会

© TDK株式会社・2021
広範グループ・2021/1/29・9

続いて、営業利益47億円増益の増減分析です。二次電池や受動部品の売上拡大による売上数量増加で約185億円の増益となりました。売価値引き影響約▲73億円を合理化コストダウン効果約50億円、約5億円の構造改革効果で吸収しました。InvenSenseの買収関連費用は約▲4億円減少、二次電池の事業拡大に伴う販売管理費の増加や、パワーセル開発加速による開発費の増加、また前期まで発生していたフィルターフィー受け取りが終了したことで販売管理費が▲81億円増加、為替変動による減益▲43億円で、トータル47億円の増益となりました。

2021年3月期 第3四半期（9か月）連結業績概要

Attracting Tomorrow



(億円)		2020年3月期 第3四半期累計実績 (2019.4.1～2019.12.31)	2021年3月期 第3四半期累計実績 (2020.4.1～2020.12.31)	対前年同期比	
				増減	増減率 (%)
売上高		10,627	10,868	241	2.3
営業利益		1,092	1,075	△ 17	-1.6
営業利益率		10.3%	9.9%	-0.4pt	-
税引前利益		1,098	1,094	△ 4	-0.4
当期純利益		744	731	△ 13	-1.7
1株当たり利益 (円)		589.16	578.49	-	-
為替	対ドルレート (円)	108.74	106.11	2.4%の円高	
	対ユーロレート (円)	121.12	122.34	1.0%の円安	
為替変動による 影響金額		売上高：約209億円の減収 営業利益：約46億円の減益			

続いて、第3四半期累計の連結業績概要についてご説明します。

売上高は1兆868億円で前年同期比2.3%の増収、営業利益は1,075億円で前年同期比▲17億円、▲1.6%の微減、税引前利益は1,094億円、当期純利益は731億円で前年同期比▲1.7%の減少となりました。売上高は9か月累計ベースで過去最高を更新しました。

2021年3月期 連結業績及び配当金見通し

Attracting Tomorrow 

(億円)	2020年3月期 通期実績	2021年3月期 業績予想 (2020年7月発表)	2021年3月期 業績予想 (2020年10月発表)	2021年3月期 業績予想 (2021年1月発表)	業績予想対前期比	
					増減	増減率(%)
売上高	13,630	12,900	14,000	14,500	870	6.4
営業利益	979	700	1,100	1,100	121	12.4
営業利益率	7.2%	5.4%	7.9%	7.6%	+0.4 pt	-
税引前利益	959	700	1,110	1,160	201	21.0
当期純利益	578	480	760	760	182	31.5
1株当たり利益(円)	457.47	379.98	601.64	601.64	-	-
配当金	中間：90円 期末：90円 年間：180円	中間：80円 期末：80円 年間：160円	中間：90円 期末：90円 年間：180円	中間：90円 期末：90円 年間：180円	-	-
為替	対ドルレート	108.82	105.00	106.00	105.00	-
	対ユーロレート	120.92	117.00	123.00	123.00	-
固定資産の取得 (設備投資)	1,734	1,800	2,000	2,000	266	15.3
減価償却費	1,250	1,400	1,400	1,400	150	12.0
研究開発費	1,175	1,200	1,200	1,200	25	2.1

最後に通期の連結業績見通しについてご説明します。

第3四半期までの累計実績、および直近の第4四半期の受注状況を踏まえ、前回10月発表の見通しを修正します。通期売上高を1兆4,500億円、税引前利益を1,160億円に上方修正し、営業利益1,100億円、当期純利益760億円は前回発表から据え置きとします。

売上高については、自動車市場・産業機器市場向け需要が引き続き好調に推移する前提で見通しを見直しています。税引前利益は営業外収益の増加を見込んでいます。

営業利益については、コロナ禍においてDX、EX関連需要動向が期初想定から大きく変化してきているため、需要動向に即した資産の適正化と競争力強化に向け構造改革を推進しており、第4四半期に一時発生費用約120億円を見込んでいます。

期末配当金、設備投資、減価償却費、研究開発費については、前回発表値から修正はありません。

私からの説明は以上です。どうもありがとうございました。

将来に関する記述についての注意事項

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競争条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は、以下のページに後日掲載いたします。
https://www.jp.tdk.com/corp/ja/ir/ir_events/conference/2021/3q_1.htm